

日本では春の訪れを感じる季節ですが、ウィスコンシンはまだ冬景色が続いています。留学も残り3か月となり、時の流れは速いと感じています。

先月はミュージカルが終わったので、生活に余裕ができた1か月でした。記録的な大雪のため、休校になった日も多くありましたが、期末テストの勉強に集中できました。今まではあまり授業のことについて触れられていなかったの、紹介できたらと思います。

2学期の時間割はBiology(生物), English11(私たちの学年レベルの英語), Algebra II(代数), Sacred Scripture(聖書), Western Civilization(古代史), Concert Band(吹奏楽), Concert Choir(合唱)でした。すべての授業がネイティブの生徒と一緒に英語で行われます。初めは授業で何が起きているのかわからないほど聞き取れませんでした。今は慣れてきてほぼ理解できています。聖書などを読む授業では、古い英語や、日本語で言われたとしても意味がわからないような今まで見たことのない単語に出会うことも多くあり、留学生でカトリックではない私にとっては読むことすら難しかったです。しかし、今まで名前しか知らなかったキリスト教の教えに触れることで、自分の視野が広がりました。聖書の中の話もよく理解できると興味深いものばかりだと思います。数学は苦手教科ですが、日本でやったことの繰り返しなのでとても簡単でした。一方、一番個人的に大変だったのは生物です。実験の分析や予想など、想像以上に英語の文章力が求められ、さらに膨大な数の単語とその意味を理解しなければ授業についていけません。アメリカに来てからあまり勉強する必要がなかったのですが、この教科だけはしっかりしたというほど、厳しい授業でした。そして私がこの中で一番好きな教科は吹奏楽です。日本では吹奏楽部に所属していなかったの、5年ぶりに楽器を手に取りましたが、毎日1時間必ず練習できるのですぐに上達しました。アメリカの好きなところは、勉強以外の熱中することにより多くの時間を割くことができることです。この授業の遠征で学校から数名、大学で数百人の他の地域から来た高校生と演奏する2日間の合宿のようなものに参加しました。この規模の大きなホールと大人数のバンドで演奏する機会は人生でも最初で最後だと思います。2日間で4曲完成させるのは決して簡単ではありませんが、周りの高校生のスキルと長時間保たれる集中力にとっても良い刺激を受けました。普段の演奏だけでなく、ソロの大会に向けた練習により一層力を入れる原動力にもなりました。

3月には3学期とスポーツが始まりより忙しくなりますが、生活のバランスを考えて健康に楽しく充実した3か月を過ごしていきたいです。

